

中広中学校だより

平成24年9月11日(火) NO. 8

校訓・・・清純・平和・希望

学校教育目標・・・「心身ともに健康で、社会に役立つ自主的行動のできる生徒を育成する」

「地域に学び、地域で育つ ～あいさつ・掃除・感謝の心～」 平成24年度心の元気を育てる地域支援事業

広島市立中広中学校

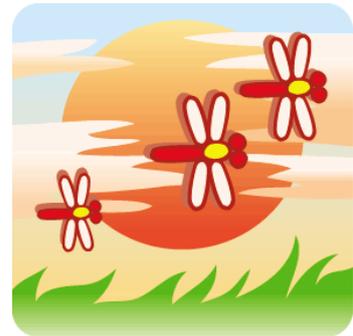
天高く、馬肥ゆる秋

灯下親しむべき候

読書の秋、学習の秋

日中はまだ30℃以上の暑さとはいえ、朝夕はすっかり涼しさが感じられる季節となりました。

学習効果のあがる季節でもあります。ところで、「天は自ら助くる者を助く」という言葉をどこかで聞いたことはありませんか。その意味するところは、「人に頼らず自分自身で努力する者には、天が助け、幸福をもたらすということ。」とされています。この文を書いた著者はイギリス人のサミュエル・スマイルズで、実に150年以上も前の著書「自助論」にあります。一部を以下に紹介します。



どんな分野であれ、成功に必要なのは秀でた才能ではなく決意だ。あくまで精一杯努力しようとする意志の力だ。この意味で、活力とは人間の性格の中心をなす力であり、つまるところ人間それ自身であるともいえよう。(中略) 何度も繰り返すように、われわれを助けるのは、偶然の力ではなく、確固とした目標に向かって粘り強く勤勉に歩んでいこうとする姿勢なのだ。意志薄弱で怠惰な人間、目的もなくぶらぶらしている人間には、どんな幸福も意味を持たない。彼らは、目の前をまたとないチャンスが通り過ぎて、その意味もわからず、ぼんやりと見過ごすだけだ。

わずかな時間もムダにせず、こつこつと努力を続ければ、積もり積もって大きな成果に結びつく。毎日1時間でいいから、無為に過ごしている時間を何か有益な目的のたけに向けてみるがいい。そうすれば、平凡な能力しかない人間でも必ず学問のひとつくらいはマスターできるようになる。そしてどんな無知な人間でさえ、十年もしないうちに見違えるほど博識の大人物に変わっていくはずだ。

「いじめ」を無くすために・・・

広島市PTA協議会からの呼びかけ

先日9月6日付けで、広島市PTA協議会から「いじめ問題への適切な取組について」と題する呼び掛け文が届きました。広島市PTA協議会へ参加している市内全ての小中学校への呼び掛け文です。是非お読み下さい。

保護者の皆様へ

いじめの根絶と「いのち」の尊さを考える(お願い)

昨年10月、大津市の中学2年生の男子生徒が自殺するという痛ましい事件が発生しました。報道によれば、その原因はいじめにあるとされています。また、広島市においても、いじめを背景とする傷害事件が発生しており、これらが全て真実だとすれば非常に残念であり、このような事件は二度とあってはならないと考えております。

私たち保護者は、これまでも子どもたちに「いじめ」はいけないことだときちんと教えることや、教育の原点である家庭教育のあり方を改めて問い直すことを確認してきました。

今回のこのような事件を真摯に受け止め、検証や今後の対応について関係機関へ働きかけるとともに、広島市PTA協議会として、(社)日本PTA全国協議会と共に子ども達を守る視点に立ち、いじめの根絶と「いのち」の尊さを考えることを次のとおり再確認します。

●私たちは「子育ての第一責任者である」ことを認識しよう。

わが子がいじめに巻き込まれたとき、親としてはいたたまれない気持ちになります。子どもの将来だけではなく、家庭も崩壊する恐れがあります。保護者はそのようなことのないよう「子育ての第一責任者である」ことを再認識するとともに、子どもの行動に責任を持ちましょう。

●子どもたちに「いじめは絶対にしてはいけないこと」だと教えよう。

いじめは自分とは異なる価値観から発生することもあります。自分と異なる人、異なる意見や考え方を持っている人を認めること、そして「いじめは卑劣で、人間としては最低」また、「いじめは自分の人間性と知性を破壊する行為」であることを教えましょう。

●子どもたちに『いのち』の大切さを教えよう。

親から授かった命はたった一つです。テレビやアニメやゲームの世界のようにリセットは出来ません。『いのち』の大切さすなわち、一度失った命は二度と帰ってこないことを教えましょう。

●子どもたちが発する「シグナル」に注意しよう。

我々大人も、精神的、肉体的に追い詰められた時には、心身や行動に異変が生じます。精神的に未熟な子どもは大人以上に変化するものです。常日頃から子どもとのコミュニケーションを取り、子どもが発する小さな異変「シグナル」を見逃さないようにしましょう。

●いじめに気がついたら「素早く対応」しよう。

子どもが発する小さな異変「シグナル」に気が付いたら学校や知り合いに相談する等、「素早く対応」しましょう。

●可能な限り「学校行事」に参加しよう。

子どもが思春期を迎えると、保護者が学校に来ることを拒む子どもが増えます。「学校行事」に参加し、学校での子どもの生活態度や交友関係を知り、子どもとの会話を増やしましょう。